

## 第2回 第2部 これからの時代に必要なキャリア教育



筑波大学人間系教授・教育学類

藤田 晃之 氏

1963年茨城県生まれ。1993年筑波大学院博士課程教育学研究科単位取得退学、中央学院大学商学部助教授、筑波大学教育学系助教授、デンマーク教育大学院（現：オーフス大学大学院教育研究科）客員研究員、筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科准教授、文学科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官（同省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官（キャリア教育担当）及び 同局教育課程教科調査官（特別活動担当）併任）等を経て、2013年より筑波大学人間系（教育学域）教授。

### ◆ トークセッション発言要旨

- ▶ ふた昔前のキャリア教育はニートフリーター対策。現在はそうではなく、職業人、家庭人、地域社会の一員など様々な役割を担いながら生きているという前提で、子供たちとともに大人も成長していく、そういう教育が必要。
- ▶ **日進月歩の知に対して、自ら進んで関わっていこう、対応していこう、学び続けていこうということが、Society5.0とキャリア教育の接点としては重要。**
- ▶ （一方、）グローバル化が同時進行し、国の枠を超えて人が行き来しあうため、新たな課題に対応せざるを得ない。**自分と異なる文化、宗教、言語、社会背景、そういった異質な他者と共にコミュニティを作り、ともに課題に対応していく力を同時に身に付けなくてはいけない。学び続けていく力と、自分と異質な他者を認め、一緒にコミュニティを作り、共に課題に対応していく力が必要。**
- ▶ **ただし、地域や学校ごとに子どもは違う。どこかうまくいっているキャリア教育をそのまま持ってきてもうまくいかない。**
- ▶ **「今学んでいることは自分に重要」、そして「この学びは将来こんな力に繋がっていく」ということを、子供たちに伝えていくことがキャリア教育の本質。**教科をなぜ学ぶのか、それを通じてどのような力が身につくのかといった、教科を学ぶ本質的な意味を明確化することが必要。今学んでいることは役に立たない、意味がない、試験のためには仕方がないということだけでなく、今学んでいることは、社会、人生に繋がり、社会や若者を豊かにしていく学びこそが深い学びであり真の姿であるということを伝える。こうしたことを、特別活動を要しつつ、すべての教育活動を通して実施することが重要。
- ▶ （課題探究が深まらない、という現場の課題に対して）地域や企業との共通認識が先生方とどの程度共有されているかが重要。課題研究の面倒を先生が全部見るのではなく、地域の方々とチームワークをとっていくことが重要。

### ◆ 山口県への提言

- ▶ **山口県は先駆性がある。「やまぐち教育応援団」は、2008年から運用されており、登録事業者数が4,987。どの県にもこういうものはなかった。キャリアパスポートも、山口県では、平成22年の重点施策の中に「夢と学びをつなぐキャリアプラン」として盛り込まれている。一方、現在はどうなっているかというのは課題としてある。**
- ▶ 自治体についての学習は、小学校3年生でしか行われていない。小学校高学年では県の学習をして、中学校では中国地方などの学習をして、県の学習はしない。**各自治体が愛情を込めて作っている教材が活用できていない。**例えば、中学校で地域の職場体験等を、小学校3年生で学習した内容が消化できていない中で実施するのはもったいない。少なくとも消化しきれなかった部分については、中学校で学習すべきだと思う。
- ▶ コミュニティ・スクールの導入時に、味方が増えて先生の肩の荷が下りるという実例を、行政側がもっと発信しないと、会議が増え、意思決定が複雑になり学校がダメになるのではないかと不安が先に来る。
- ▶ 学生自身が自分の物差しで自分がどこを目指すのかと考えた時に、**モデルや憧れが多いほうが良い。学校だけではなく、地域の方と一緒に子供を育てた方が良い。**

## 草創期のキャリア教育の焦点

- ニート・フリーター問題への対応策のひとつとして登場(1999[平成11]年・中教審答申、2003[平成15]年・若者自立・挑戦プラン)



- 「小学校では早すぎる」との評価の定着化
- いわゆる「進学校」と評される高校での不活性化
  - むしろ、キャリア教育への否定的態度の助長



- 予算がついて全国展開する「中学校での職場体験活動」の突出化(2005[平成17]年度～文科省「キャリア・スタート・ウィーク」)
  - なんだ、キャリア教育っていうのは、中学で職場体験をさせればいだけなんだ.....

### 今日のキャリア教育の定義

**一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。**

#### ●「キャリア」とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。(中略)このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

- ・ 第4次産業革命 ・ Society 5.0
- ・ グローバル化や知識基盤社会の進展

- ・ 幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
- ・ 学び続ける力
- ・ 切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと 等



## 総則が示すキャリア教育実践の在り方

— 小・中・高に共通する規定 —

児童・生徒が、

- 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力※を身に付けていくことができるよう、  
※各学校が、目の前の子供の実態に即して設定する
- 特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

なるほど、  
今学んでいることは、自分にとって重要なんだなあ

なぜなら、この学びを通して、将来必要なこんな力が身につくのだから

特別活動を要としつつ、  
すべての教育活動を通して実践する

## 学級活動・ホームルーム活動

### 現行

#### ● 小学校

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

#### ● 中学・高校

- (1) 学級(ホームルーム)や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

### 新

#### ● 小・中・高共通

- (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校の全ての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである」(p.235)

## 学級活動・ホームルーム活動

#### ● 小・中・高共通

- (1) 学級・ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

#### ● 内容の取扱い

(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童/生徒が活動を記録し蓄積する教材(=キャリア・パスポート)等を活用すること。



## リクルート進学総研「キャリアガイダンス」 編集顧問

### 角田 浩子 氏

1958年神奈川県生まれ。1981年東京大学教育学部教育心理学科卒業。同年株式会社リクルート入社、出版部配属。高校進路指導の専門誌「キャリアガイダンス」編集、高等教育機関の学校経営専門誌「リクルートカレッジマネジメント」編集を経て、1998年4月より「キャリアガイダンス」編集長。2013年10月より同編集顧問。全国の高校で取材・講演多数。  
文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員（2015年～）

#### ◆ トークセッション発言要旨

- キャリア教育は職場見学やインターンシップに限られることなく、教育そのものだと思っている。
- 岡山県倉敷南高校（普通科）では、自分の進む方向が何かしら決まっている子どもたちに、ゆさぶりをかけることで、自分の言葉で自分の夢を語る生徒を作りたいという目的から、地域連携での探究活動を始めた。町衆プロジェクトという、地域の方たちを町衆と呼んで巻き込んで、仕事や進路について大人と語り合う、訪問・見学し課題を見つけポスターセッションをする、といった取り組みを3年間のプロジェクトで実施している。ルーブリック評価により自己評価を繰り返す、自分の進路につなげていくことで、イベント型ではない進路につながる仕組みとしている。
- 大分県佐伯豊南高校（総合学科）では、自分が何をしていたらよいかわからない子どもたちに、多くの体験をする中で課題解決力やコミュニケーション能力を育ててもらい取り組みを実施。佐伯テーマに探究活動を行っている。具体的な提案実施につながり、進路にもつながった子どももいる。
- 生徒会活動もキャリア教育の一環となる。東京の私立校の例だが、学校の一員として学校環境の改善を行っている。
- 現状の地域連携型学習は、お仕着せの課題になっていることが多い。**紹介事例は、本当に子どもたちの中から生まれしてきた課題。先生は生徒への問いかけという形で自らの問いをみつけさせることができるのではないか。**

#### ◆ 山口県への提言

- キャリア教育のポイントは、生徒が違和感を感じたり、問題だと思っている、何とかしないとイケないという意識をちゃんと育むようにすること。そのプロセスで、多数決では無い、合意形成の場を経験していくことが非常に重要と考えている。
- 生徒たちには実は力があるので、任せるということが必要。大人側には任せる勇気が必要だが、生徒は大人を乗り越えていくもの。自分たちを乗り越えてくれというスタンスを持つことが重要。
- **教員や進路指導やキャリア教育は、変われ変われと言われて、苦しい状況になっている。「JAPAN e-Portfolio」の活用が大学入試で映えるような記述にしようという、本末転倒なこともおきている。**探究活動も研究成果のみに重きを置かれる可能性がある。**本来はプロセス重視で、どんな力が身についたかが重要**で、成果のほうを評価する風潮を崩さないといけない。



探究学習  
地域連携

## 地域連携で脚本のない探究ができる 「場所」や「チャンス」を提供

✓ 佐伯鶴岡高校と旧・佐伯豊南高校が統合(2014年開校)

- 4つの学科→
- ① 総合学科
  - ② 食農ビジネス科
  - ③ 工業技術科
  - ④ 福祉科



### SHAプロジェクト

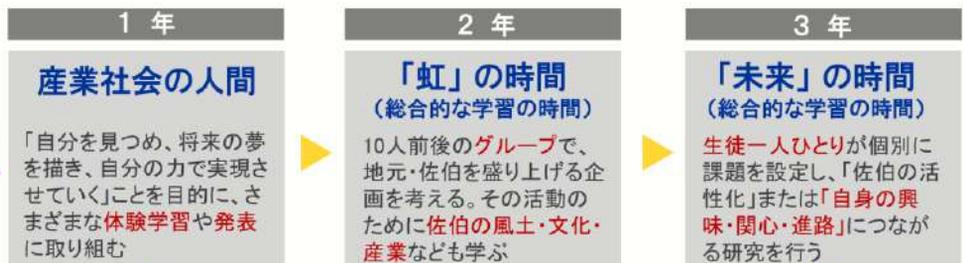
SAIKI HOUNAN ALL

将来何をしたいかわからないまま、漠然とした夢をもって入学してくる。

生徒の興味・関心が呼び起こされ、自分で次の道を切り拓いていく『自分力』を磨く

→「地域とともに」学習する場を実現し、課題解決力やコミュニケーション能力等を育む

探究の核となる授業  
SHAプロジェクト



探究活動とさまざまな機会を関連付け

探究における「情報収集」「仮説の実行・検証」「発表」等に活用する場所・チャンス

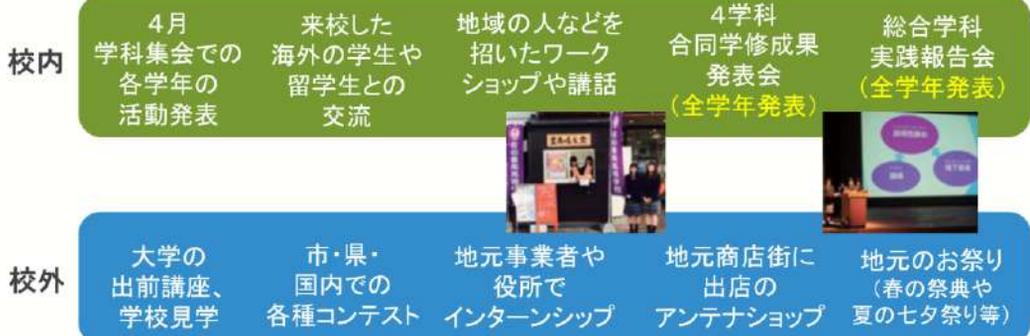


図2 3年生「未来」の時間の個別研究テーマ例

探究の核となる授業  
SHAプロジェクト探究における「情報収集」  
「仮説の実行・検証」「発表」  
等に活用する場所・チャンス

校内

校外

分野	生徒それぞれのテーマ
観光	佐伯の恐い観光名所 ～お化けを見たい～
	佐伯ラーメンを全国へ ～ホームページで佐伯を紹介～
	佐伯フォトポスター ～フォトポスターでPR活動～
イベント	東北と九州をつなぐ絆 ～県を越えたスイーツ～
	図書館利用率を上げよう ～目指せハッピーセブン全員達成～
商品開発	ゲーム制作 ゲームで佐伯を広めよう
	カボスぷりんの研究 ～佐伯の特産品を使った商品開発～
	ご当地ソング ～佐伯のご当地ソングを作ろう♪～
食	佐伯のお魚世界を旅する ～佐伯の魚を知り尽くせ!～
	スポーツと食事 ～スポーツと食事の関係性～
保育	おやっ!! ～栄養いっぱい! 苦手なものの克服～
	子どもの笑顔で佐伯を元気に! ダンスでつくる笑顔の輪
医療	食べやすい病院食づくり～医療に役立つために～ 佐伯で作るリハビリ ～佐伯から広げるリハビリの輪
防災	私たちの身近な危険 ～命を守るために～
	楽しくできる防災訓練をしよう

3年

「未来」の時間  
(総合的な学習の時間)生徒一人ひとりが個別に  
課題を設定し、「佐伯の活  
性化」または「自身の興  
味・関心・進路」につなが  
る研究を行う

関連付け

4学科  
同学修成果  
発表会  
(全学年発表)総合学科  
実践報告会  
(全学年発表)元商店街に  
出店の  
テナショッ地元のお祭り  
(春の祭典や  
夏の七夕祭り等)

## これから(今すぐ!)のキャリア教育のポイント

## ●生徒の「課題意識」の醸成 世界・日本・地域・校内

×インターンシップで働く厳しさを感じました

探究 プラス ポートフォリオ、キャリア・パスポートで  
さまざまな活動で得た本人が気づいていない「気づき」を

## ●意思決定・合意形成の経験を

特別活動(生徒会・ホームルーム・学校行事)をキャリア教育の要に

## ●生徒にこうなりたいと思われる大人の存在

## ●教師を助ける存在の多様化と増加

## ●生徒に任せる勇氣

## ●自分たちを乗り越えてもらうというスタンス

この議論に若者を!



## 株式会社キャリアリンク 代表取締役

若江 眞紀 氏

1987年に株式会社アクセプト設立。生活者からの視点に基づいた新たな市場戦略により、企業のマネジメント戦略、マーケティング戦略の策定・実施を総合的にサポートするクリエイティブ・コンサルティング事業を展開し、現在も活動中。子育てを通して日本とアメリカの教育に同時に触れた経験から、日本の教育に課題を感じ、1991年に保育・教育分野に特化した株式会社キャリアリンクを設立。企業の教育CSRや官公庁・自治体の教育施策へのコンサルティング事業を通じて、産業界と教育界をつなぐ次世代育成に取り組む。～)

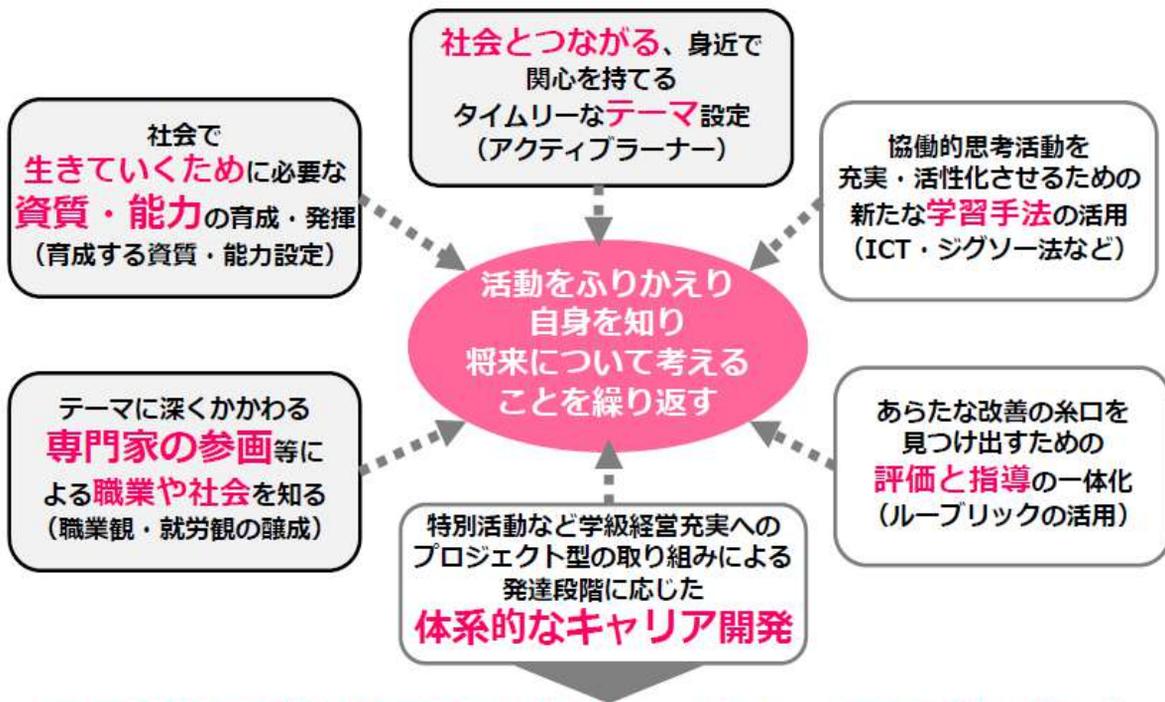
### ◆ トークセッション発言要旨

- 企業が新卒を採用するにあたって重視する力は、コミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神。20年前は、1位は熱意、気合。この20年を比較するとほとんど同じものはない。
- 教科で学んでいることをどう活用するかには適切なテーマが必要であり、そのテーマは、産業界と共通的な課題として中央にあげている「SDGs」。社会の課題そのものが学習テーマになってくる。
- **企業が教育に関心をもつ位置付けもずいぶん変わってきている。CSRといわれる企業の社会的責任から、CSV（クリエイティブ シェアド バリュー）という共同で解決する社会課題という位置付けになっている。だからこそ企業はもっと本気で教育連携に取り組まなければならない状況にある。**
- キャリアリンクが作成している冊子（キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム会報誌Vol.13）には、どんな企業が、どのような授業に関わる教育プログラムを提供しているかの情報が掲載されており、学校現場は学年に合わせて教科・単元の導入や発展でどう活用すればよいか、わかりやすく掲載されている。
- アメリカ カリフォルニア州では、学習に課題のある地域の高校などで、空いている教室に色々な企業を入れ込んで、自社会の仕組みをそのまま授業に組み込み、その仕事に必要な教科・単元を認識することで学びへの意欲を喚起している。学校ごとに誘致する企業に特色を出し、生徒は自身の関心に応じて学校を超えて授業を選択することができる。

### ◆ 山口県への提言

- （山口県では）**先進的にコミュニティ・スクールや学びのポートフォリオを進めているが、やり遂げられていないのではないかと。新たな時代の人づくりを検討されているいいチャンスなので、（課題を整理し）リスタートをするべき。**
- 高校でコミュニティ・スクールをスタートするとき絶対に失敗にしてほしくないことは、他県の小中のコミュニティ・スクールを見ると、運営協議会のメンバーに、団体の長のみを集めて、**肝心な生徒のためにやるとか、リアルな生の声をあげられる人をおいていないケースが多い。運営協議会はまず学校が教育方針を示して、地域の方、企業の方から意見や連携を得る場でないといけない。**
- 高校段階でレベルの高い探求活動を実施しようとすれば、小中学校の間にきちんとした資質能力が育成されていないと、いつまでたっても「ごっこ遊び」の探求にとどまってしまう。探究活動に関するノウハウを蓄積し、山口版の事例を作っていただきたい。小中学校の間は、いろんな職業が山口にあるということを知るだけでも良く、高校になるとリアルな課題に学んだ知識・技能を活用しながら、リアルに取り組むことが必須。
- 企業が高校の授業に関わる際には、長期間かかわってもらう場合もあり、この取組は将来に向けた投資だということを産業界側、企業側に打ち出して、ともにやり遂げていくという気持ちを産業界にも持ってもらうといけない。
- 全国各地での研修に行った際に現場の声を聴くと、コミュニティ・スクールの看板はついたが魂がないので機能していないケースもある。ここで、もう一度考え直してみようという機会を作ることが大事。
- **応援団のリストはどこの団体でも形骸化しており、失敗しているが、その理由は、応援団が支援したい内容と、学校のニーズがマッチしていないから。**

## ■ 学校現場が取り組もうとしていること



## 9年間の系統立てたカリキュラム・マネジメント

13

## ■ 産業界の動き



■ 学校と社会（地域・企業）の効果的な協働のために

校長のマネジメント力が重要！

学校地域連携担当教員  
全教職員

保護者・地域・企業の  
学校教育

学校の教育方針や課題  
の共有と理解

地域学校協働活動推進員  
地域コーディネーター

社会とつながる教育実現のために  
互い知ることからスタートしましょう！

29

■ 企業教育支援活動の方向性

学校現場の変化、ニーズにこたえる教育支援活動 = 教育CSR

**CSR（企業の社会的責任）**

**CSVへ**

※Creating Shared Value（共有価値の創造）

自社の強みを活かし、  
社会と企業の持続的な発展を戦略的に行っていくこと  
教育CSRをコストとしてだけでなく、  
将来に向けた投資、収益を生み出す機会と捉える活動へ

18

## 第3回 歴史に学ぶ山口県の人づくり



歴史家・作家

加来 耕三氏

1958年大阪市生まれ。1981年奈良大学文学部史学科卒業。現在は大学・企業の講師をつとめながら、歴史家・作家として独自の史観にもとづく著作活動を行っている。『歴史研究』編集委員。内外情勢調査会講師。中小企業大学校講師。政経懇話会講師。主な著作に『1868 明治が始まった年への旅』（時事通信社）、『天才光秀と霸王信長』（さくら舎）、『歴史の失敗学』（日経BP）、『坂本龍馬の正体』（講談社）のほかに、コミック版日本の歴史シリーズ『幕末・維新人物伝 吉田松陰と高杉晋作』『同 木戸孝允』『歴史を変えた日本の戦い 明治維新』（ポプラ社）などの監修もしている。

### ◆ トークセッション発言要旨

- 日本人の歴史認識というのは、わかっているようで実は何にもわかっていない。スタートとプロセスに学ばないから、歴史を活用することができない。**人づくりで重要なのは結果ではなくプロセスであり、そしてスタートを考えなければいけないが、日本人は結果しか見ていないため、歴史を使うことができない。**
- 吉田松陰の凄さをほとんどの人は理解していない。安政の大獄で殺されたことしか知らない。**人づくりを考えるのであれば、その人間が何をしようとしたかを問わなければならない。何をしたかという結果論だけで物事を見ても、そこから得るものはなく、多くの方々がそこを勘違いされている。**
- 吉田松陰の言葉の中にある「かくすれば かくなるものと 知りながら 已むに已まれぬ 大和魂」。これこそ人づくりで、この気持ちを持っている人間を押し出してやるのが重要。**長州藩が凄いのは、松陰を使った、可愛がったこと。この気質が今は日本全体にない。言うことの半分以上はよくわからないけれども、とにかくやらせてみたらどうかと、こういう人間がいない。**
- 人間は自分より優秀な人間は理解できないが、歴史の世界には例外があり、軒下を貸して、母屋とられる覚悟で全てを委譲した場合に、それに応えてくれる「好漢」と言われる人間が存在する。ただ、採用する側がそれを見つける、認めてやるべきだが、人物がいない。今の日本が極めて難しい状況に来ているのも、まさに同じこと。見つける、認めてくれる上がないのだ。
- ポイントは3つ。1つは歴史を疑ってかかること。歴史小説、大河ドラマでも、感動したことが、歴史的に成り立つのか、それとも単なる作り話なのかということを見分ける訓練をしてほしい。2つ目は、飛躍する論旨を捨てること。なるものはなる、ならないものはならないと理解した上で、物質的な豊かさではなく、身近にある心豊かなものに対して、何をしているとき一番幸せか、その最高の順番を決めた上で、一生懸命働きましょうという、論旨が出てこなければ、今後の財政破綻以降の日本は、極めて難しい状況になると考えられる。3つ目は、数字を重視したものの考え方は徹底すること。数字が嘘をいった歴史学の世界は無く、歴史に全て答えがある。原理原則は何ら変わるところはなく、歴史に学んでいただく意義を考えていただければ、人をつくるということにおける意義も当然見えてくる。
- 山口県は、たくさんの先人を持っており、いろいろな業界で成功した人を持っていながら、なぜその原理原則に学ばないのか。**何をしようとしたかを見なければいけないのに、そこにたどり着く方法論をほとんどの方が見失っている。もう一度歴史について、地に足付けて考えていただきたい。**

### ◆ 山口県への提言

- 今の平成から令和の子どもは、答えしか求めない。スマートフォンの中に入っている一つの答えを求めて、それで良いとする。そのプロセスは何も意味が無く、それを分からなくてもいいと考えている。**プロセスを見ない、考えないから、日本はますます馬鹿になる。せめて山口だけは逃れて頂きたい。**



## 株式会社ゼロワンブースター 代表取締役 CEO

### 鈴木 規文 氏

1999年カルチュア・コンビニエンス・クラブ入社、管理部門を統括するコーポレート管理室長。東証マザーズ上場、東証1部指定替えプロジェクトメンバー。2006年エムアウトにおいてアフタースクール事業「キッズベースキャンプ」を創業するとともに、兼務で新規事業開発シニアディレクターを歴任。同事業を東急電鉄に売却、3年間のPMIを経て、同社取締役退任後、2012年事業創造アクセラレーター01Booster（ゼロワンブースター）を創業し、起業家支援、企業向け新規事業開発支援事業を行っている。2009年グロービス経営大学院アルumnナイワード受賞。

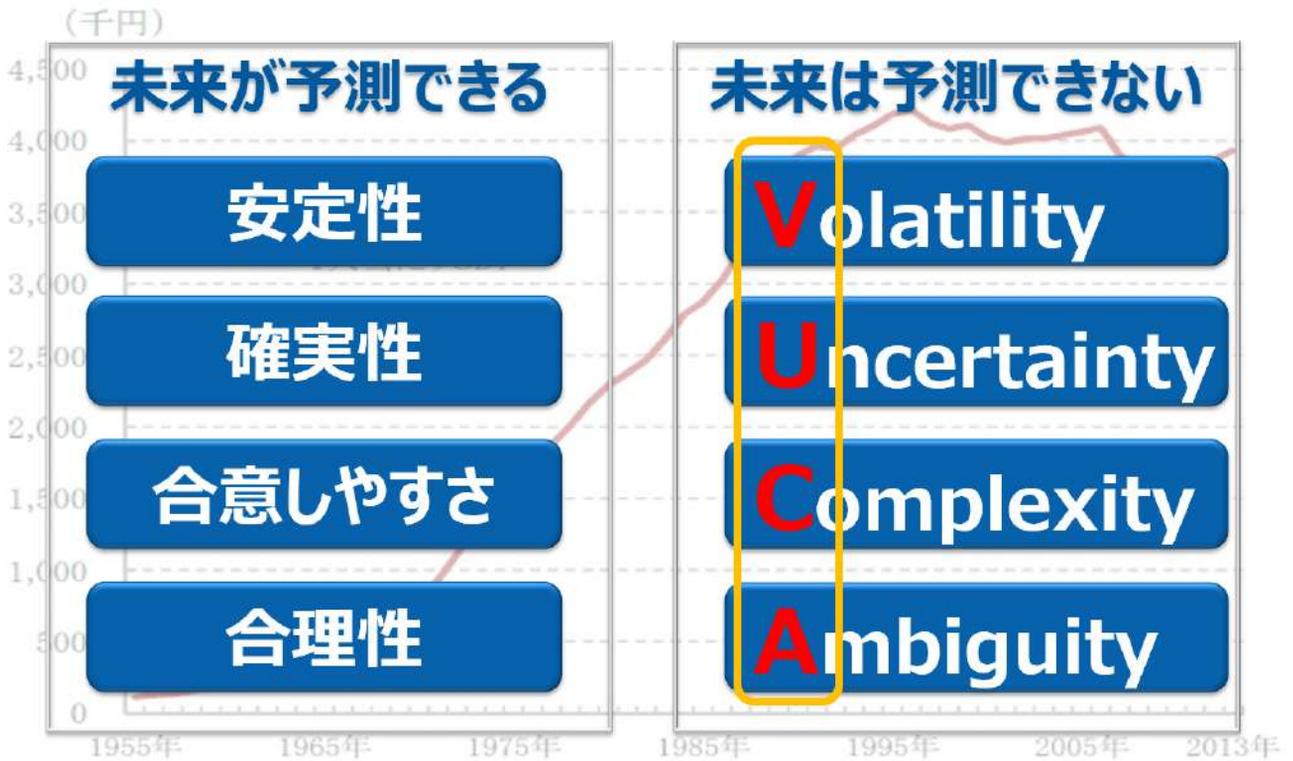
### ◆ トークセッション発言要旨

- ▶ 未来はほぼ予測不可能なVUCAの時代となっている。変動的で不確実で複雑で曖昧な時代が来ている。今の子供の65%は今ある仕事についてない、75%の仕事がAIに置き換わる、AIの進化のスピードは強烈であり、ほとんどの仕事がAIに駆逐される、と言われている。
- ▶ 高度成長期は、未来が予測可能な時代であり、目的を達成するために最適な答えを探せば良く、選択肢の中から合理的な最適解を探す、綺麗に答えをする優等生はたくさんいた。日本のかつての教育はまさにこういうことだった。VUCAの時代では、自ら問いを見つけられないといけない。Whatを探せ、これが起業家教育。そうするとWhatを定めるためには、自分が一体何者なのかということを知らないといけない。
- ▶ 九州産業大学の学生が作った作品では、たまごはいろんな形あって、たまご焼きもいろんな形があって良いはずだが、日本の学校教育はそれを綺麗に整えていることを揶揄されている。
- ▶ 東大生がMBAなどへ行くよりも、起業する流れが起きている。その中で、有名なY-Combinatorなどのアクセラレーターという起業家教育をする事業に、東大の学生たちがどんどん行き始めている。大企業の経営者や銀行に育てるのではなく、起業家を育てることが起きている。
- ▶ 変革の地域偏在性理論というものがあ、特定の地域に変革を起こす人たちが生まれる。松下村塾はわずか2年半の中で、変革者を多く産んだ。Y-Combinatorなどアクセラレーターの活動と、松下村塾は、大変似ている。
- ▶ **起業家教育で重要なのは、学校教育のように座学ではなく、行動第一であること。また、内発的動機、心の叫びを聞くこと。いわゆる技術とか専門ではなくて、リベラルアーツ、一般教養が重要。あとはほどほどに、「狂って」いること。**
- ▶ イタリアのカターニア大学で40年間複数の人を追いかけてその人が成功したか失敗したかということとを全部40年かけて調査した。**運か才能かという調査だが、結論は運。偶然とかセレンディピティと言われるが、どうすればいいかという、ジャストスタート、ただ行動する、動きなさいということが重要。**

### ◆ 山口県への提言

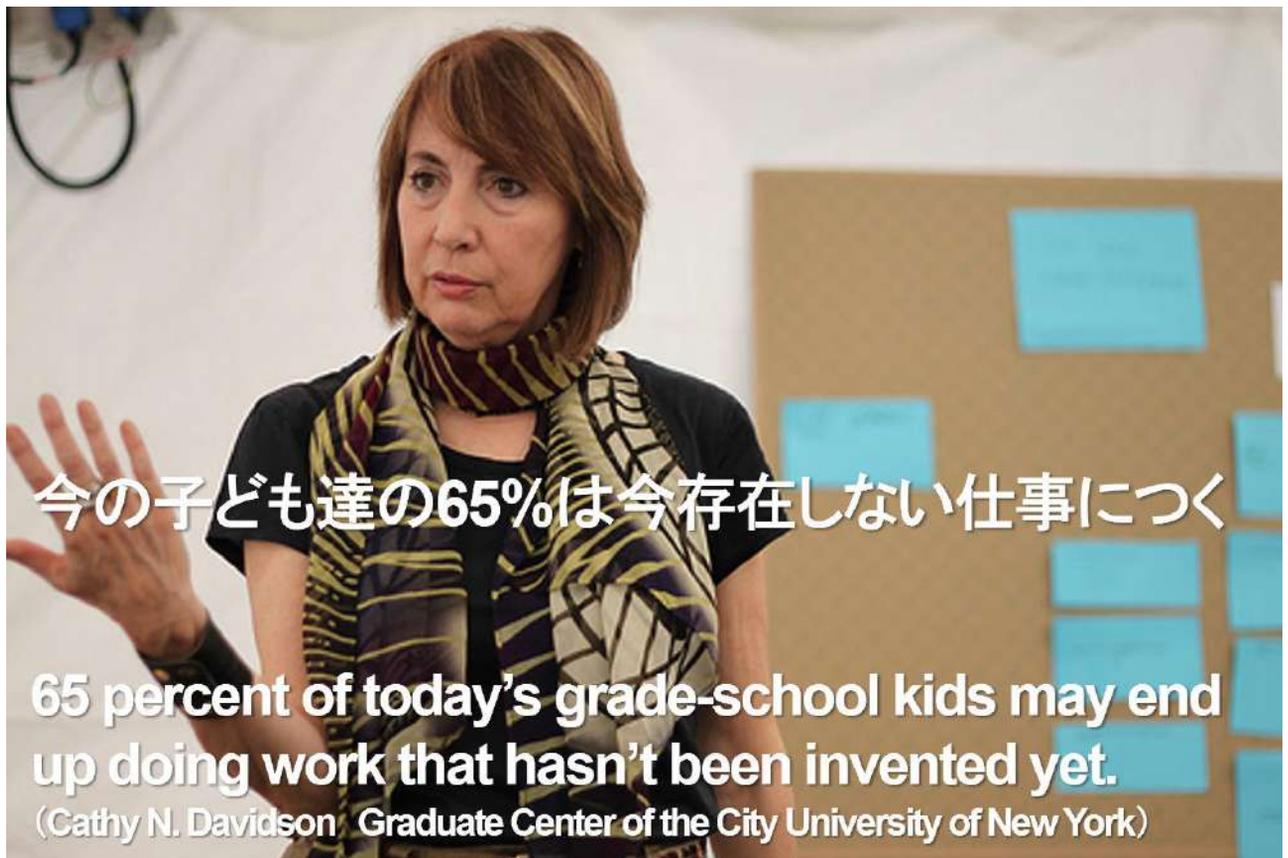
- ▶ 起業家の世界は、逸脱行為はカッコいい行為と思っていけないといけない世界。大人たちが駄目と言っていることが良いという環境をどう作ってあげるかを考えないといけない。日本はまだそういった環境になっていない。
- ▶ MBAは既に否定されており、それより**現場に飛び込むことが、教育効果があるという考え方に変わっている**。今は大企業の経営者を育てるより起業家を育てた方が良いという考え方になっている。

# VUCAの時代



Copyright 2019 01Booster Inc. All rights reserved.

・4・





47%の仕事はAIに置き換えられる

47% of jobs are at risk of being automatable through advances in artificial intelligence and robotics.

Michael A. Osborne Professor of Machine Learning at the University of Oxford

## 予測不可能な世界での求められる行動

### Causation

未来が予測可能  
目的・結果が見込める



目的を達成する方法を考える  
Howを探す



与えられた選択肢の中から  
合理的に最適手段を選ぶ

### Effectuation

未来は予測不可能  
不合理



行動しながら結果を描く  
**What**を探す



心から何がしたいのか？  
**Who am I ?**



### 日本の学校教育

同じ服を着せ、同じ考え方を、同じ答えを求める。「普通」になるために切り捨てられていく個性。まず第一に「群かにする」ことを教える日本の教育。子供の将来のためという大人のエゴ。本当に子供たちに必要なものは自らの意思で選択できるのかとそれができる環境ではないだろうか。

## 短期間で起業家を養成するコミュニティ



# Combinator



## Geographical Concentration of Innovation

### 『変革の地域偏在性理論』

過去の歴史を見ると、  
イノベーションは全国・全世界で起きていない。  
特定の地域でしか起きていない。

吉川智教（横浜市立大学名誉教授）

## 幕末～未来が予測不可能



## Y-combinator と 松下村塾

1. 行動や実践につながることを重視  
師弟共学、講義ではなく、討論が中心、
2. 内発的動機を重んじ、長所を伸ばす  
自分は何者かについて考える  
教養を積むことが大切→リベラルアーツ
3. 多様性、身分に分け隔てない
4. 2年半 永続を前提とせず、期限がある
5. 狂ってる  
諸君、狂いたまえ / Stay foolish

合理性ではなく、偶有性

## Talent と Luck ランダム性理論

Talent vs Luck:

the role of randomness in success and failure

A. Pluchino\*, A. E. Biondo†, A. Rapisarda‡

### Abstract

The largely dominant meritocratic paradigm of highly competitive Western cultures is rooted on the belief that success is due mainly, if not exclusively, to personal qualities such as talent, intelligence, skills, smartness, efforts, willfulness, hard work or risk taking. Sometimes,



## 萩博物館 総括学芸員

### 道迫 真吾 氏

1972年福岡県生まれ。1999年明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了。現在は萩市観光政策部萩博物館総括学芸員・文化財保護課世界文化遺産室を兼務。2015年NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の制作に資料提供者として関わる。同年「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録に関与し、その構成資産である萩反射炉をはじめ、現在も幕末長州藩の科学技術史の研究に力を入れている。2018年NHK「ブラタモリ」の萩の回に資料提供者として関係・出演した。主な著作に『長州ファイブ物語—工業化に挑んだサムライたち—』『萩の世界遺産—日本の工業化初期の原風景—』（萩ものがたり）などがある。

#### ◆ トークセッション発言要旨

- ▶ 日本の産業革命は、失敗から始まった。失敗を積み重ねて、試行錯誤の積み重ねで、欧米列強に負けない国作りをするため、日本人が一生懸命頑張った恩恵を、今、私たちが与っている。
- ▶ 萩の世界遺産の物件は、萩城下町、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所、大板山たたら製鉄遺跡、そして松下村塾と5つが入っている。この構成資産5つが成功したか失敗したかという、実は全てうまくいっていない。**萩市には大砲を作ろうとした跡、軍艦を作ろうとした跡、教育施設である松下村塾など全て残っている。それが優位性を産んでいる**ということで、萩の人々、山口の人々が残してくれているのは、とてもありがたいこと。**豊富な歴史的遺産を将来に繋げて、子どもたちにもバトンタッチしていかないといけない。**
- ▶ 技術は人づてに教えてもらって、真似して盗んで自分のものにするという特性がある。そういった意味で、この**萩の事例**というのは、**まず失敗したということが重要。なぜ失敗したのだろう、何が足りなかったのだろう、足りないところをどうやって補ったらいいのだろうということを考えるのが人間。萩の凄いと、長州藩のすごいところは、一早く失敗したから、次に何の手を打つ必要があるかを理解できた。失敗から何をやるかを、どのように不足を補うかを絶えず反復して行い、戻ってまた行ってということを繰り返して、経験値が上がっていく。そういうことを長州の人たちはよくやれていた。**

#### ◆ 山口県への提言

- ▶ 5つの構成資産が見事にストーリーを持っている。幕末の城下町と工場、教育設備などのストーリーが流れてくる都市は日本中を探しても他に無い。鹿児島で佐賀でも同じようなことをしているが、**実際に現場を訪ねて見られるのは萩だけ**ということは、**山口県の強み。**

## 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」

- 「明治日本の産業革命遺産」は、平成27年（2015）に世界文化遺産に登録された。
- 日本が欧米諸国以外で初めて産業革命を達成し、工業国家の仲間入りをした軌跡を物語る。
- 8県11市に点在する23件の資産で構成され、うち5資産が萩市内に存在する。
- 萩城下町、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、松下村塾。

## 萩の構成資産は試行錯誤の軌跡

- 日本は1850年代から1910年代まで約50年で産業革命を達成。萩の構成資産は1850年代、産業化の初期の試行錯誤の軌跡を物語る。
- 萩は、幕末、サムライが手探りで工業化を開始したころの「原風景」である。

⇒子どもたちには、何事も失敗はつきものであること、必ずしも一度で成功するわけではなく、何度も何度も挑戦することの大切さを伝えたい。

## 地域の歴史から世界史が見える

- 萩の資産を見れば、欧米列強の東アジアへの進出という国際情勢の変化を受け、まずは軍事産業から近代化が始まったということが視覚的によくわかる。
- 日本は、明治維新を経て、軍事産業だけではなく、政治・経済・文化とトータルに西洋諸国の影響を受け、近代国家に変貌する。

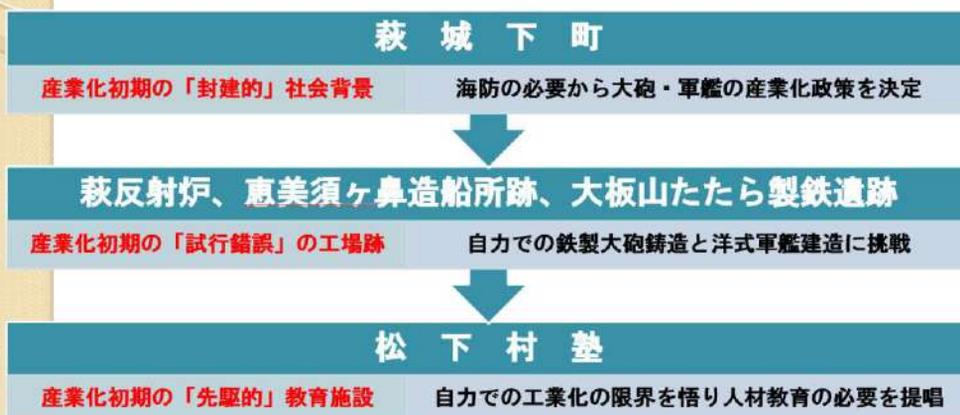
⇒子どもたちには、身近な地域の歴史が実は世界史にまでつながっていることを伝えたい。

## 萩の産業化初期の遺産群

—萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾—



## 産業化初期における萩の5資産の位置づけ



## 維新後「長州ファイブ」が産業化政策を主導



長州ファイブ(萩博物館蔵)



工部大学校(萩博物館蔵)